

平成 31 年度入学式 式 辞

日毎に明るさを増す春の日差しを浴びて、草木が一斉に芽吹き始める季節となりました。

この慶き日に、同窓会長清水賢一様を始め、多数の来賓の皆様のご臨席を賜り、長野県篠ノ井高等学校 平 31 年度入学式を挙げていきますことを、心から感謝申し上げます。また、ご参列いただきました保護者の皆様には、我が子の成長を願い、陰に日向に手を差し伸べてこられたご労苦に対し、深く敬意を表します。

全日制課程 241 名、定時制課程 11 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。高校時代は、自分の周りの様々な人々との触れ合いを通じ、人格の形成において最も深みや彩を増す時期です。新鮮で実りある経験をたくさん積んで下さい。

今月末で幕を閉じる平成は、第 2 次世界大戦後に築き上げた様々な仕組みが、時代や環境変化に適応できなくなった時代でした。漸進主義的で抜本改革が進まず、日本中がもがく 30 年だったように思います。特に人口減少への対応は、財政・社会保障改革を含め「道半ば」でした。「令和」時代を生きる私たちは、次の世代に持続可能な日本の未来を託す責任があります。18 歳選挙権制度が整い、高校生にも、既存の社会的サービスのうち、「何を守り、何を諦めるのか」といった視点で国と地方の現実を知り、主権者として、課題の解決にあたる学びが求められています。

さて、19 世紀ヨーロッパでは、中世の綻びが社会の至るところに現れ、市民社会の成立という大変革が起きました。自由を獲得し個人の幸福を追求しようとする人々の願いを支えたのが、実は哲学者ニーチェに代表される「キリスト教的、絶対的な正解はない」という主張でした。認識論は納得解（共通の正解でなく、自分にとっての正解）を求める方向へ向かい、人々は「この私にとっての生きる目標」に価値の内実を見出そうとしました。今、日本の学校教育は「学力の三要素」を掲げ、納得解を探究する学びへの転換を図っています。一斉一律型から、穏やかな協同性に支えられた個の学びに変え、「自分なりの豊かさ」を自覚できる自立した学習者を育成することが求められています。

長野県では「高校改革～夢に挑戦する学び～」が始まりました。授業の改革と校外での学びの推進が目的です。篠ノ井高校は、昨年度から新しい試みを取り入れてきました。その成果のひとつとして、プレゼンテーション力を開発する取組みが評価され、外務省の高校生大使プロジェクト「JENESYS 2018」により、日本からの ASEAN 諸国への派遣校（全国）3 校のうちの一校に選ばれ、3 月に 16 名の生徒がマレーシアに国費派遣されました。帰国後は、成果発表会もあり、皆さんも国際交流体験を共有できることになっています。

新入生の皆さん、まずは、英語力を含むコミュニケーション能力を磨いて下さい。大学入試では、センター試験に替わる「新テスト」の導入、英語 4 技能の試験が課されることすでに決まっており、従来の読む・聞く能力に加え、英語を書く・話す能力が測られます。実際に、異国の文化の中で人と触れ合うとき試されるのは、知識や経歴より、コミュニケーション能力に裏打ちされたその人が持つ人間としての魅力です。人を惹きつける力のある人を見てみると、皆一様に生き方に自信を持っていて表現力が豊かです。自分の生き方を肯定し、同様に他者の生き方を受け入れる懐の深さこそ、コミュニケーションの根本だからです。

最後に、あなたが好きで得意な課外活動にも、伸び伸びと取り組みましょう。仲間と共に泣き、共に笑い、掛け替えのない友情を育みながら、学業とクラブ活動の両立を成し遂げられたら、何と素晴らしい高校生活でしょうか。心から応援しています。

創立 97 年の伝統を持つ本校で、自立した学習者に育つことを願い、式辞といたします。

平成 31 年 4 月 4 日
長野県篠ノ井高等学校長
岩田 学